

# ICT を活用した英語授業モデルの実践と検証

ICT を活用したアクティブラーニング，協働学習をベースにした英語授業デザイン

反 田 任 同志社中学・高等学校

## 1 はじめに

文部科学省は平成 26 年 9 月の「グローバル化に対応した英語教育改革の五つの提言」において 2020 年を見据え、英語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の 4 技能のバランス良い育成とともに、主体的な学びにつながる「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を重視することを明言している。今後、中学校では英語で伝え合うコミュニケーション能力を身につけること、高等学校では英語で発表や討論などを行う言語活動や情報や考えを的確に理解したり、適切に伝えたりするコミュニケーション力を身につけることが求められている。本研究では、生徒が主体的に学ぶためのアクティブラーニング，課題解決のための協働学習を授業に取り入れ、さらに ICT を効果的に活用しながら生徒の英語運用能力向上のための効果的な活用の可能性を追究してきた。本研究においては特に以下の点に留意し、授業デザインを考えた。

- (1) 生徒の英語による言語活動が中心の授業
- (2) 生徒が自ら学んだことを英語で的確にアウトプットできる授業
- (3) 知識・語学力・思考力・コミュニケーション力を統合して育成する授業

## 2 実践した授業モデルの紹介

### 2-1 英語で環境問題について考える

#### (1) 概要

教科書(New Crown Book 2)に出てくる環境問題がテーマである題材をさらに発展させる形でグループで環境問題をテーマにしたプレゼン

テーションを制作し、発表する。最終段階で「オンライン英会話」を活用し、Skype で Native の先生に評価を受ける。

#### (2) 授業の流れ (5 時間)

- ① 教科書の内容を iBooks Author で作成したデジタル教材で理解する
- ② 教員が環境問題をテーマにプレゼンテーションを制作し、提示する
- ③ グループ (3~4 人) で図書や Web を活用しグループで決めたテーマにもとづき資料を収集する。
- ④ グループでプレゼンの構想，英文を書く

■プレゼンの構成を考えよう 2年組 班 ( )

(1) グループテーマ (Presentation Title)

(2) Presentation の構成を考えよう

② 序論 (なぜそのテーマを選んだのか)	③ 本論 (問題であること、事実を述べる)
④ テーマ (訴えること)	⑤ まとめ (解決策、自分たちができること)
⑥ 結論 (問題に対する自分たちの考え)	

図 1 授業プリントの一例

- ⑤ 各グループの英文を学習ポータルサイトの掲示板で共有し、「学び合い」を行う。
- ⑥ グループ内で分担してプレゼンを制作し共有しまとめる (授業支援アプリを活用)



図 2 ファイルを共有してプレゼン制作

- ⑦ オンライン英会話の先生に Skype でプレゼンを提示し、アドバイスを受ける。



図3 Skype を活用して英語プレゼン、評価をもらう

- ⑧ プレゼンを修正し、音声を入れて提出。  
 (3) 授業モデルの検証

この授業モデルにおける ICT の活用を以下のようにまとめてみた。

授業での ICT 活用まとめ

アプリ、ツール	使用目的
Skype	Native の先生との会話
タブレット	教科書内容理解(iBooks) 情報検索(Web, 英語辞書)
授業支援アプリ	プレゼン制作, 作品提出
Speak It!	自作英文の発音練習
CMS 掲示板	プレゼン発表英文の共有 生徒同士の学び合い

授業の中で生徒はグループで決めたテーマについて協働的に学びながら資料を収集し、プレゼンテーションを制作する。また、グループで作成した英文を学習ポータルサイトで交流することによって他のグループの英語表現や内容を参考にするなど、「学び合い」が促進される。さらに Skype で Native の先生と約 20 分間英語で会話し、評価を受けることによって、制作した英語のプレゼンが実際に通じるかどうか、またアドバイス、評価を受けることによってプレゼンを修正するという PDCA サイクルができた。

(4) 生徒の感想(一部紹介)

・英語しか通じない環境で、しかも先生の助けを十分借りれないので、自分たちでなんとかするしかなかった。それで必死で英語で話した。

・英語が得意ではないので心配だったがなんとかやりきれた。プレゼンについても「良かったよ」と評価してもらったので嬉しかった。

生徒の感想からも、課題解決にむけてグループで協力して取り組んだ成果と達成感がうかがえる。

2-2 将来の社会を見据えて自分の夢を語る

(1) 概要

教科書の My Dream を題材に、未来の社会がどのように変化するか考えながら、自分の将来について考えて見る。

(2) 授業の流れ (7 時間)

① TED のビデオ(“What will future jobs look like?”)を見て AI が進化し、職業がどのように変化するかグループで考える。

② グループで 2030 年に「消えていく職業」と「新しく出現する職業」について図書や Web で調べながら意見を交わし、プレゼンにまとめる。



図4 付箋を使いながらグループで意見を集約する

③ ②のテーマについてグループの意見をプレゼンで発表する。(英語または日本語)

④ 将来の職業はどうなるかということ考えた上で “My Dream” について英語スピーチで発表する。

⑤ 英語スピーチを考える際に、Edmode を用いて高校生にアドバイスをもらう。

(3) 授業モデルの検証

この授業モデルのねらいは以下の点にある。

・人工知能(AI)などによりこれからの社会がどのように変化していくか等、ニュースで報道されている情報を改めて知ることにより生徒が現実の社会に目を向けること。

・近い将来における「消えゆく職業」「出現する職業」を考えながら、収集した情報により、グループで意見交流し、自分たちの分析と意見を織り込むことが必要なこと。

・将来の職業の動向を考えた後に”My Dream”を考える時、「キャリア教育的要素」が含まれること。

・教育系 SNS(Edmode)で高校生に英語の添削、アドバイスをしてもらうことで新たな学びを経験できること。

#### 授業での ICT 活用まとめ

アプリ、ツール	使用目的
タブレット	情報検索(Web, 英語辞書)
授業支援アプリ	プレゼン制作
Speak It!	自作英文の発音練習
教育系 SNS (Edmode)	My Dream 英文添削による生徒同士の学び合い

この授業では協働学習により自分たちで調べた内容を、個人個人がより深く理解しながら My Dream のスピーチに結びつけることができた。例えば、「先生になりたい」という夢を語った生徒のスピーチでは ” Robots have more knowledge than human beings. Also they surely have much more possibilities because I'm using an iPad at school. Robots can teach some subjects, but they can't understand students' feelings. Therefore, I think that teachers won't disappear easily.” としっかり自分の意見を述べている。このように、スピーチで自分の意見を述べる生徒が数多く見られた。

#### (4)生徒の感想

・今まで、英文に直す時はネットを使ったり、英和辞典で調べたり、先生に直接聞いたりしていました。と、いかそういう手段しか知りませんでした。しかし、この回はインターネットで交流するという新しい方法で、すごく時代を感じました。インターネットを使っているけど安全で、とても便利で、良い方法だなと思いました。

・自分が考えた文章を高校生に添削してもらおうとい

うことで、新鮮な気分でした。返信が返ってきたときはうれしかったです。自分の文章のおかしいところを直してもらえるだけでなく、なぜこうすればいいのかということを丁寧に説明してくださったので、わかりやすかったです。とても良い経験になりました。

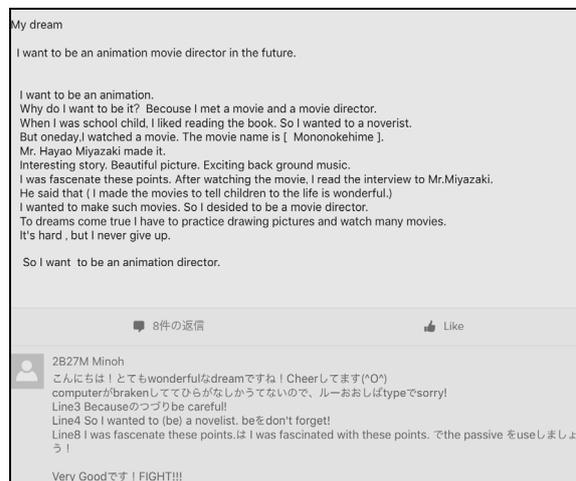


図5 教育系 SNS(Edmode)でのやりとりの例

## 2-3地雷除去から学ぶ -Our Peace Book-

### (1) 概要

カンボジアで地雷除去に携わる Aki Ra さんの題材をもとに与えられた6テーマについてグループで協働学習し、個々に学習した内容を新たに繋いでまとめる。その上で自分にとっての「平和とは何か」について考える。

### (2) 授業の流れ

- ① 地雷の埋設地域の現状と地雷除去に取り組む Aki Ra さんのストーリーを読み内容を理解する。導入の資料として Youtube の動画を活用した。
- ② 地雷の埋設地域の現状を理解した上で、トピックを絞り、グループでリサーチする。(図書、Web 検索を活用)
- ③ リサーチした事実を英語で客観的に伝え、そのことについての感想や意見、解決策などを Free Writing として英文にまとめる。
- ④ グループを、各トピック 1 名ずつで構成する。
- ⑤ プレゼン発表とお互いにコメント・評価をする。
- ⑥ “Peace Book”(Todd Parr) を読み、”What’s “Peace” for me?” を考え、英語で表現する

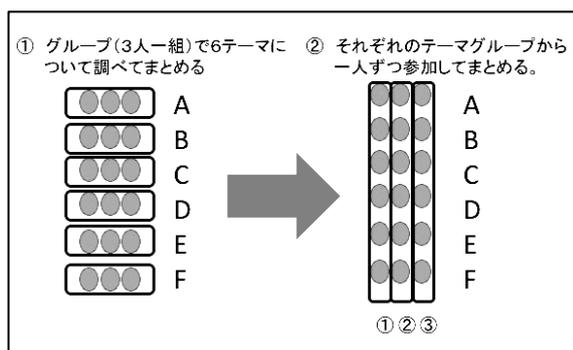


図6 グループ構成のイメージ

### (3) 授業モデルの検証

この授業モデルでは、1年間の集大成として調べた内容 (Research) を客観的に英文で表現すること、自分の考え(My idea)を述べることを目標として、Free Writing, 協働学習, ジグソー法を組み合わせてみた。それぞれが持ち寄った英文を元に一つのプレゼンに作り上げる作業はストーリーやつながりの言葉を考える必要があり、考えをまとめるのに効果的である。生徒もこのような学習方法に慣れてきた。また、最初の導入の際に、Youtube を見た感想を英語で書き、授業支援アプリを使って提出し、お互いの意見を交流した。

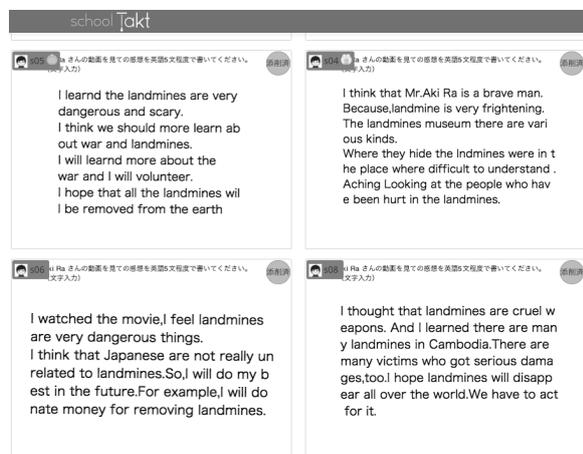


図7 授業支援アプリ(SchoolTakt)を活用して意見交流

#### 授業での ICT 活用まとめ

アプリ, ツール	使用目的
タブレット	情報検索(Web, 英語辞書)
PowerPoint 等	プレゼン制作
Speak It!	自作英文の発音練習
授業支援アプリ SchoolTakt	導入ビデオの感想を英文で書き, 共有する

### 3 ICT を活用するメリット (効果)

これらの3つの授業モデルでは ICT を活用する効果として以下のような点があげられる。

#### (1) 個別学習の充実

デジタル教材による教科書の内容理解やアプリによる自作英文の発音練習など、各個人で学習できる場面で効果的に活用することができる。また個人のペースで行えるので何度でも繰り返し学習することにより理解が深まる。

#### (2) 情報共有による生徒の学び合い

学習ポータルサイト(掲示板), 授業支援アプリ (SchoolTakt) により生徒の意見, 考えなどがより簡単に共有・閲覧できる環境となり, 学び合いが促進される。

#### (3) 異学年, 学校を超えた学び

教育系 SNS(Edmode)を活用することにより, 時間と距離に関係なく交流ができる。その結果, 上級生が下級生に教えたり, 学校を超えたインタラクティブな「学び」が可能になる。

#### (4) 英語の4技能をバランス良く鍛える

iBooks によるデジタル教材を活用した内容理解 (Reading), アプリによる発音練習 (Speaking), 学習ポータルサイトや授業支援アプリ, SNS への書き込み (Writing), Skype による交流 (Listening, Speaking) そして英語のプレゼン発表 (Speaking) など ICT を活用しながら英語の 4 技能をバランス良く向上させることができる。

### 4 まとめ

学習者主体の学びであるアクティブ・ラーニングや協働学習と ICT を効果的に組み合わせた授業は今後増加してくるであろう。授業デザインを考える際には, (1)学習者の学びにたいするマインドセットをどう引き出すかということ, (2)「教える」から「学ぶ」へ, 「『学び方』を学ぶ」といった学習者の視点を大切にしていくことが必要ではないだろうか。また、英語の4技能をバランスよく身につけ、自分の主張を英語でしっかりと発信できる力を身につけることをめざす授業を今後も創り出していきたい。